

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年3月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

| 種類 | 2月の価格情報 | | | | 3月 | 生育及び価格の3月中旬の見通し | | | |
|-------|-----------------------|------------------------|--------|-----|-----|-----------------|---|---|--|
| | (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格 | 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 | | | | | (参考)保証基準額の算定の基となる平均価格 | | |
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | | | |
| 葉 茎 菜 | キャベツ | 88.05 | 88 | 87 | 84 | 88.05 | ・入荷見込量:16,840(100) ・主産地:愛知(68)、千葉(15)、神奈川(12) | ・愛知産は、全体的には生育は順調で適度な降雨と気温の上昇もあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、最近の降雨と低温などにより傷みが散見され、現在は平年より少なめの出荷となっているが、今後は主力産地の増量が見込まれることなどもあり、平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、2月の低温により小玉傾向で、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は次作の生育は順調で平年並みの出荷の見込み。 ・愛知産、千葉産及び神奈川産の出荷が、平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 83.73 | 83 | 85 | 84 | 83.73 | ・入荷見込量:4,900t(131) ・主産地:愛知(63)、大阪(23)、和歌山(6) | | |
| | ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) | 229.99 | 222 | 216 | 243 | 229.99 | ・入荷見込数量:4,320(101) ・主産地:千葉(47)、埼玉(25)、茨城(10)、輸入(4) | ・千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の発生が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、他品目の収穫作業を優先した影響で平年よりやや少なめの出荷であったが、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産及び茨城産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 450.51 | 410 | 438 | 442 | 450.51 | ・入荷見込数量:230t(95) ・主産地:徳島(35)、奈良(16)、香川(12)、三重(11)、高知(10) | | |
| | はくさい | 61.12 | 48 | 42 | 46 | 61.12 | ・入荷見込量:8,960t(100) ・主産地:茨城(41)、兵庫(33)、群馬(14) | ・茨城産は、出荷の終盤期であるが、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、即売物の出荷はピークを過ぎ減少傾向であるが、今後は冷蔵物の計画的な出荷で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び兵庫産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 | |
| | | 68.70 | 62 | 57 | 59 | 68.70 | ・入荷見込量3,100t(95) ・主産地:長崎(50)、愛知(16)、兵庫(12)、熊本(11) | | |
| | ほうれんそう | 307.66 | 463 | 480 | 453 | 307.66 | ・入荷見込量:1,640t(102) ・主産地:茨城(33)、群馬(23)、千葉(18)、埼玉(15) | ・茨城産は、生育は順調で作付面積の増加もあり、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、露地物は一部で低温と乾燥の影響から生育の遅れが見られるが、回復基調であり、施設物は生育は順調であるものの、全体的には平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、2月末からの気温の上昇と適度な降雨もあり生育は順調で、現在は平年よりやや多めの出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、茨城産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 341.25 | 493 | 530 | 498 | 341.25 | ・入荷見込量:650t(103) ・主産地:徳島(70)、福岡(13)、大阪(7) | | |
| | レタス (結球) | 233.85 | 232 | 251 | 233 | 199.64 | ・入荷見込量:8,410t(100) ・主産地:茨城(37)、静岡(21)、香川(9)、兵庫(7)、栃木(4) | ・茨城産は、生育は順調で引き続き平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。静岡産は、病害の発生の影響から引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、最近の曇天と降雨の影響で根の張りが悪く一部で病気の発生が見られ、平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は気温の上昇に伴い平年並みの出荷の見込み。 ・静岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、茨城産及び香川産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、3月以降平年の価格水準が下がる時期となる中で、価格は平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 226.75 | 234 | 253 | 246 | 203.61 | ・入荷見込量:1,300t(105) ・主産地:兵庫(41)、徳島(22)、香川(11)、長崎(9) | | |
| | たまねぎ | 76.15 | 94 | 97 | 103 | 76.15 | ・入荷見込量:11,180t(104) ・主産地:北海道(68)、静岡(9)、輸入(5) | ・北海道産は、選別・調整を終えて倉庫に保管されて、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。静岡産は、育苗期の10月の台風と長雨の影響で、生育が良くなく、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・出荷の大宗を占める北海道産の出荷は、計画的な出荷が見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 | |
| | | 76.15 | 95 | 97 | 97 | 76.15 | ・入荷見込量:3,700t(91) ・主産地:北海道(50)、長崎(20)、兵庫(14) | | |
| 果 菜 | きゅうり | 370.98 | 429 | 361 | 334 | 253.93 | ・入荷見込量:5,880t(101) ・主産地:宮崎(20)、群馬(20)、千葉(18)、埼玉(15)、茨城(11) | ・宮崎産は、生育は順調であり、最近の曇天の影響で現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、気温の上昇と日照量の増加に伴い、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、最近の曇天の影響で肥大が停滞していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、最近の日照不足などにより、肥大が停滞していることから、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は日照量の増加に伴い、平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、宮崎産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、2月から平年の価格水準が下がる時期であることもあり、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 | |
| | | 350.33 | 412 | 339 | 314 | 242.77 | ・入荷見込量:1,250t(96) ・主産地:宮崎(40)、高知(24)、徳島(17)、愛媛(7) | | |
| | トマト (大玉) | 332.60 | 374 | 421 | 441 | 339.78 | ・入荷見込量:6,610t(100) ・主産地:熊本(32)、栃木(20)、愛知(11)、茨城(6)、千葉(5)、埼玉(5)、福岡(4)、群馬(3) | ・熊本産は、生育は順調なものの、最近の曇天の影響で着色が鈍く、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、最近の低温と曇天の影響で生育が遅れが生じ、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・栃木産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、熊本産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づき見込み。 | |
| | | 311.06 | 360 | 392 | 418 | 321.78 | ・入荷見込量:1,350t(114) ・主産地:熊本(62)、福岡(13)、愛知(7) | | |
| | なす | 389.03 | 467 | 452 | 421 | 347.77 | ・入荷見込量:2,930t(100) ・主産地:高知(59)、福岡(21)、佐賀(5) | ・高知産は、最近曇天が続いているため、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は気温の上昇と日照時間の増加に伴い、生育も回復することから、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、最近の曇天の影響から生育が停滞しており、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は日照時間の増加に伴い平年並みの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、3月以降平年の価格水準が下がる時期となる中で、価格は平年並みに推移する見込み。 | |
| | | 397.74 | 466 | 445 | 409 | 330.95 | ・入荷見込量:580t(98) ・主産地:高知(33)、熊本(25)、福岡(21)、岡山(10) | | |
| | ピーマン | 551.24 | 700 | 707 | 685 | 551.24 | ・入荷見込量:1,800(98) ・主産地:茨城(33)、宮崎(33)、高知(20)、鹿児島(12) | ・茨城産は、最近の曇天の影響で花落ちや着果不良が見られ、現在は平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は天候の推移に応じて、平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、病害もなく生育は順調であるが、最近の曇天の影響で出荷の伸び悩みもあるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、現在出荷の谷間で平年より少なめの出荷となっているが、特段の病害もなく生育は順調なことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産、宮崎産及び高知産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づきものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。 | |
| | | 513.91 | 654 | 659 | 640 | 513.91 | ・入荷見込量:530t(104) ・主産地:宮崎(47)、高知(24)、鹿児島(9) | | |
| | 根 菜 | だいこん | 79.03 | 88 | 78 | 85 | 79.03 | ・入荷見込量:13,870t(100) ・主産地:神奈川(60)、千葉(33) | ・神奈川産は、小ぶり傾向であったが、最近の適度な降雨と気温の上昇から生育が進み、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育はやや遅れ気味で現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は増量が見込まれることから平年並みの出荷の見込み。 ・神奈川産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 |
| | | | 80.47 | 73 | 62 | 70 | 80.47 | ・入荷見込量:3,000t(104) ・主産地:鹿児島(36)、長崎(31)、徳島(19) | |
| | | にんじん | 101.05 | 79 | 79 | 80 | 101.05 | ・入荷見込量:7,470t(102) ・主産地:千葉(50)、徳島(26)、埼玉(6)、輸入(3) | ・千葉産は、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、出荷の終盤を迎え徐々に数量は減少傾向となり、今後は平年並みの出荷の見込み。徳島産は、中旬から出荷が開始される見込みであり、低温などの影響でやや遅れていた生育は、現在は回復傾向であり、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び徳島産の出荷が平年並みの出荷と見込まれることから、平年を下回っている価格は、徐々に平年並みに近づき見込み。 |
| | 104.73 | | 71 | 72 | 79 | 104.73 | ・入荷見込量:2,500t(116) ・主産地:鹿児島(77)、徳島(12)、長崎(6) | | |

| 種類 | （参考） 保証基準額の算定の基となる平均価格 | 2月の価格情報 | | | （参考） 保証基準額の算定の基となる平均価格 | 生育及び価格の3月中旬の見通し | | |
|----|---------------------------|------------------------|-----|-----|---------------------------|-----------------|---|--|
| | | 指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 | | | | | | |
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | | |
| いも | さといも | 217.95 | 229 | 238 | 225 | 217.95 | ・入荷見込量: 510t (100) ・主産地: 埼玉 (38)、千葉 (37)、輸入 (5) | ・埼玉産は、現在は貯蔵品の計画的な出荷が行われており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、これまで前進出荷の傾向であったことや出荷の終盤期となることに伴い、減少することが見込まれ、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷と見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年を上回って推移する見込み。 |
| | | 219.65 | 251 | 265 | 261 | 219.65 | ・入荷見込量: 85t (-) ・主産地: 愛媛 (59)、輸入 (16)、宮崎 (10)、熊本 (8)、鹿児島 (4) | |
| も | ばれいしょ | 88.17 | 93 | 97 | 104 | 88.17 | ・入荷見込量: 8,620 (97) ・主産地: 北海道 (64)、鹿児島 (34) | ・北海道産は、現在は貯蔵品の出荷で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、これまでの収穫は順調であったが、今までの干ばつの影響と最近の降雨による収穫の遅れから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・北海道産及び鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。 |
| | | 88.17 | 86 | 92 | 94 | 88.17 | ・入荷見込量: 3,700t (79) ・主産地: 鹿児島 (57)、北海道 (43) | |

注: 1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは大阪は前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、1月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,374gで前年比100%、購入金額は、1,755円で同99%となった。
また、小売物価統計によると、2月のキャベツの小売価格は、202円で過去5か年平均比91%、レタスは、588円で同93%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

| 年 | 過去5か年平均 | | 平成26年 | | 平成27年 | | 前年比 | 前年比 |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|-----|
| | 購入数量(g) | 購入金額(円) | 購入数量(g) | 購入金額(円) | 購入数量(g) | 購入金額(円) | | |
| 1月 | 4,272 | 1,640 | 4,379 | 1,775 | 4,374 | 100 | 99 | |
| 2月 | 4,485 | 1,666 | 4,646 | 1,742 | | | | |
| 3月 | 4,868 | 1,811 | 4,958 | 1,878 | | | | |
| 4月 | 4,765 | 1,855 | 4,871 | 1,887 | | | | |
| 5月 | 5,089 | 1,917 | 5,146 | 1,993 | | | | |
| 6月 | 5,056 | 1,902 | 4,998 | 1,976 | | | | |
| 7月 | 4,402 | 1,737 | 4,542 | 1,770 | | | | |
| 8月 | 4,315 | 1,731 | 4,275 | 1,846 | | | | |
| 9月 | 4,688 | 1,844 | 4,745 | 2,035 | | | | |
| 10月 | 5,191 | 1,902 | 5,455 | 1,973 | | | | |
| 11月 | 4,990 | 1,700 | 5,291 | 1,704 | | | | |
| 12月 | 5,146 | 1,927 | 5,233 | 1,977 | | | | |

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注:過去5か年平均は、平成22～26年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都都区部)(単位:円/kg)

| | キャベツ | | | レタス | | |
|-----|---------|-------|---------|---------|-------|---------|
| | 過去5か年平均 | 平成27年 | 5か年比(%) | 過去5か年平均 | 平成27年 | 5か年比(%) |
| 1月 | 212 | 229 | 108 | 684 | 827 | 121 |
| 2月 | 222 | 202 | 91 | 631 | 588 | 93 |
| 3月 | 205 | | | 500 | | |
| 4月 | 243 | | | 453 | | |
| 5月 | 163 | | | 365 | | |
| 6月 | 137 | | | 317 | | |
| 7月 | 160 | | | 332 | | |
| 8月 | 138 | | | 400 | | |
| 9月 | 158 | | | 591 | | |
| 10月 | 174 | | | 469 | | |
| 11月 | 164 | | | 429 | | |
| 12月 | 172 | | | 546 | | |

資料:総務省「小売物価統計調査報告」
注:1 過去5か年平均は、平成22～26年の平均。
2 平成27年2月の値は、2月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

1月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比67%の6万3千トン、加工野菜は同83%の14万2千トン、野菜全体は、同77%の20万5千トンとなった。このうち中国産野菜合計は80%の11万5千トンとなった。
生鮮野菜、加工野菜ともに前年を大幅に下回ったことから、野菜全体においても前年を大幅に下回った。

野菜の輸入数量

(単位:トン、%)

| 区分 | 平成25年 | | 平成26年 | | 平成27年1月 | |
|-----------|-----------|-----|-----------|-----|---------|-------|
| | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年同月比 | 前年同月比 |
| 生鮮野菜 | 854,042 | 90 | 884,752 | 104 | 62,812 | 67 |
| 加工野菜 | 1,854,162 | 97 | 1,784,905 | 96 | 142,197 | 83 |
| 野菜合計 | 2,708,205 | 95 | 2,669,658 | 99 | 205,009 | 77 |
| うち中国産野菜合計 | 1,415,762 | 97 | 1,409,102 | 100 | 115,308 | 80 |
| 中国産シェア | 52 | | 53 | | 56 | |

資料:ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位:トン、%)

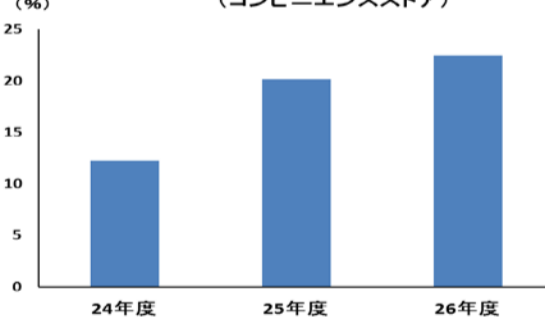
| 品目 | 輸入先 | 平成26年1月(A) | 平成27年1月(B) | (B)/(A) |
|------|-----|------------|------------|---------|
| | | たまねぎ | 合計 | 35,836 |
| | 中国 | 28,327 | 20,276 | 72 |
| | 米国 | 7,127 | 3,312 | 46 |
| にんじん | 合計 | 6,340 | 3,708 | 58 |
| | 中国 | 5,769 | 3,634 | 63 |
| ねぎ | 中国 | 34 | 28 | 82 |
| | 合計 | 4,486 | 4,849 | 109 |
| | 中国 | 4,454 | 4,841 | 109 |

資料:農林水産省「植物防疫統計」注:平成27年1月は速報値。

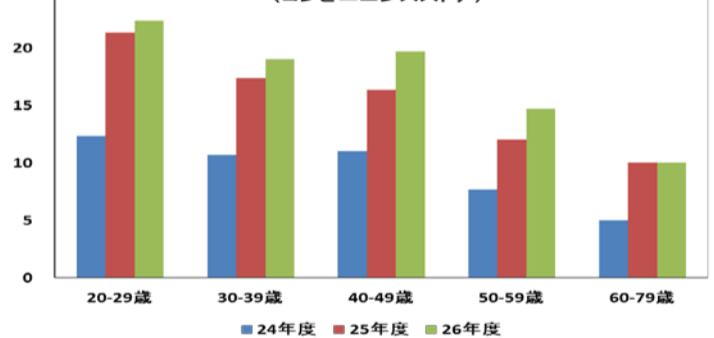
4 トピック — コンビニエンスストアにおけるカット野菜の消費動向 —

当機構では、需要が堅調なカット野菜(簡便野菜(キャベツ等の千切り)、鍋物セット、カップサラダ、ポテトサラダ)の消費動向調査(Web調査)を平成24年度から実施している。今回は、そのうち、コンビニエンスストアにおける簡便野菜の最近の特徴を紹介する。
消費者の購入先(複数回答)で見ると、コンビニエンスストア(平成26年:40.3%)は、スーパーマーケット・生協等(同93.2%)に次ぐ店舗となっており、毎年、その割合は増加傾向にある。
また、年齢別に購入した者の割合を見ると、20～29歳層で最も高くなっており、最近では、40～49歳層、50～59歳層の割合が着実に増加しており、購買層の中壮年層への広がりがうかがわれる。
さらに、世帯属性別に購入した者の割合を見ると、男女とも単身・単身世帯の割合が高くなっており、最近では専業主婦女性の割合が増加しており、共働き世帯よりも高くなっており、このうち、専業主婦女性がコンビニエンスストアで購入する理由をみると、「家庭での調理時間を節約できるから」が増加傾向で75.0%(平成26年)と最も高く、全世帯計(同:68.1%)よりも高いという特徴がみられる。このほか、「好きなものを選んで購入できるから」も増加傾向にある。
このように、コンビニエンスストアでは、店舗数の増加や、生鮮品を中心とする品揃えの充実もあり、カット野菜の購入層が、従来の若者や共働き世帯から、中壮年層や専業主婦層にも着実に広がりがつつある傾向がみられる。
今後とも核家族化の進展や共働き世帯、単身世帯の増加に伴い、カット野菜の需要先として、コンビニエンスストア向けの割合が高まることが考えられる。

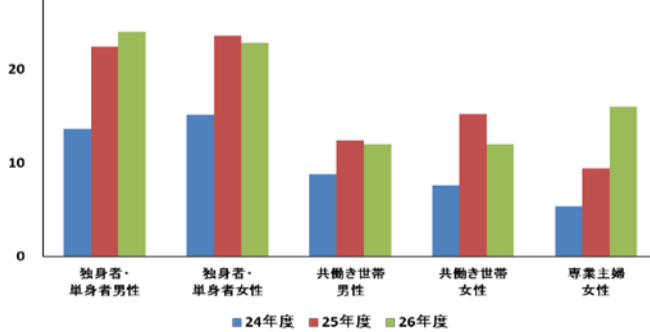
簡便野菜の購入先の推移(複数回答、以下同じ)(コンビニエンスストア)



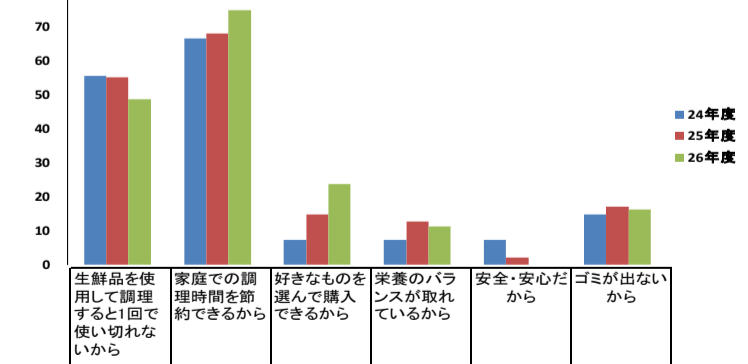
簡便野菜の年齢別の購入者割合の推移(コンビニエンスストア)



簡便野菜の世帯属性別の購入者割合の推移(コンビニエンスストア)



専業主婦女性が簡便野菜を購入する理由(コンビニエンスストア)



◆お問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、<http://vegetan.alic.go.jp/vegetable-report.html>に掲載しています。